

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 23 年 12 月 22 日 (2011.12.22)

【公表番号】特表 2011-508266 (P2011-508266A)
 【公表日】平成 23 年 3 月 10 日 (2011.3.10)
 【年通号数】公開・登録公報 2011-010
 【出願番号】特願 2010-539712 (P2010-539712)
 【国際特許分類】

G 0 2 C 7/02 (2006.01)

G 0 2 C 13/00 (2006.01)

【 F I 】

G 0 2 C 7/02

G 0 2 C 13/00

【手続補正書】
 【提出日】平成 23 年 11 月 2 日 (2011.11.2)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

レンズ波面を決定する方法であって、
 患者の波面を測定して、瞳孔収差

【数 1】

$$p(n,m); \quad n,m = -\frac{L}{2}, \dots, \frac{L}{2}$$

を生成する段階であって、ここで、瞳孔収差

【数 2】

$p(n,m)$

はグリッド上に表示され、 n 、 m は行列要素の添え字であり、 L はグリッドの一辺の画素の総数である、段階と、

複数の矯正された波面

【数 3】

$a_{ij}(n,m)$

を生成する段階であって、ここで、 i 、 j は i 番目の横方向の位置、 j 番目の縦方向の位置の添え字であり、 i 番目及び j 番目の各矯正された波面

【数 4】

$a_{ij}(n,m)$

は、

【数 5】

$$a_{ij}(n,m) = p(n,m) + s(n+i, m+j)$$

と表され、ここで、

【数 6】

$$s(n+i, m+j)$$

は、($n + i$) 番目の横方向の位置及び ($m + j$) 番目の縦方向の位置におけるレンズ波面であり、瞳孔収差

【数 7】

$$p(n, m)$$

及びレンズ波面

【数 8】

$$s(n+i, m+j)$$

はグリッド上に表示され、 i は該グリッド上の i 番目の横方向の位置、 j は j 番目の縦方向の位置を表す、段階と、
複数の矯正された波面

【数 9】

$$a_{ij}$$

の関数を生成する段階と、
複数の矯正された波面

【数 10】

$$a_{ij}$$

の関数を最適化することによって、レンズ波面を決定する段階と、
前記レンズ波面を考慮してレンズを製造する段階と、を備えた方法。

【請求項 2】

前記複数の矯正された波面

【数 11】

$$a_{ij}$$

の関数を生成する段階が、前記グリッド上の i 番目の横方向の位置及び前記グリッド上の j 番目の縦方向の位置の各組み合わせに対して、前記レンズ波面の特定の点に中心のある瞳孔に対する

【数 12】

$$a_{ij}$$

の直交成分を計算する段階を備える、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記

【数 13】

$$a_{ij}(n, m)$$

の直交成分を計算する段階が、

【数 14】

$$a_{ij}(n, m)$$

と、前記グリッド上の対象の点に中心のある直交関数の組との内積を計算する段階を備える、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記

【数 1 5】

$$\mathbf{a}_{ij}(n, m)$$

の直交成分を計算する段階が、

【数 1 6】

$$\mathbf{a}_{ij}(n, m)$$

を、前記グリッド上の対象の点に中心のある直交関数の組と畳み込む段階を備える、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 5】

前記レンズを製造する段階が、前記レンズにわたって前記レンズ波面をフィッティングする段階を更に備える、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記グリッドが 8×8 のグリッドであり、瞳孔が、前記 8×8 のグリッド内の 3×3 のサブグリッドとして表される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記直交関数の組が、ゼルニケ多項式の近似式として表される、請求項 3 に記載の方法

。